

凡例

1. 資料は全て辻村伊助発である（武田久吉宛1068のみ近藤茂吉との連名）。
2. 宛先ごとに通番を付したが、武田久吉宛のみ所蔵先の横浜開港資料館での資料番号（武田家旧蔵アーネスト・サトウ関係資料）に拠った。
3. 本冊子で解説が掲載されている資料には★を付した。
4. 翻刻にあたり、常用漢字等に改めた箇所がある。
5. 行替等は原則として原資料に拠った。
6. □は判読困難を示す。
7. 翻刻は、小田原市立図書館学芸員の鈴木一史及び同館の星野和子が行った。

松井秀三郎宛（個人蔵・小田原市立図書館寄託）

1 明治三十九年（一九〇六）一月一六日 ★

時々水彩画の
画はがきを御送り
下さい。
僕も写真を
送ります。
これ
から
また画はがき
交換を
いたしま
しょう
これは昨年夏
撮影した
小田原の海岸です。
いつも小田原の
ばかりで
あきたでしょう
が次には
他のをあげます

2 明治四〇年（一九〇七）九月二二日 ★

昨日は種々
御馳走になりました
誠にありかたう
御別れしてから
午後十二時頃に無事
着郷しました
上京の日は十六日頃ですか
いつれその中に
御しらせ致し
ます
先づは御礼まで

3 明治四三年（一九一〇）七月 ★

表面
赤城の中腹に古き友を思ふ
こゝは三の輪の寒村で、見下ろす
西南の空が君が住む都の辺り
であろう

裏面
百合をうつ
時雨を浴びて
只でとう
夢見るごとく
夏山をゆく

4 明治四四年（一九一一）六月二七日 ★

例の如く赤城山に來り候
静かな湖の岸に、その湖の如き静かな
幾日を送るつもりに御座候毎日の霧
雨の中に興深く覚え候
二十七日
赤城山にて
辻村伊助

5 (年月不明) 一三日

はがきをありがたう
七日から二高山岳会で仙台に
招かれて曾祢に会って来た
帰りの汽車の中から
レウマチスで困ってまだ
起きる事が出来ない
脊骨と腰が痛んで閉口してゐる 同窓会
にも出たいがとても動け
ないで困る、曾祢は
元氣だ 今度君と一
所に小田原に来ると云つて
ゐた 久しく逢はないから
早く三人でそろいたい、

伊助

辻村芳子宛 (個人蔵)

1 明治四五年(一九一二) 六月四日 ★

先日は御はがきをありがたう存じました 御壮
健で何よりうれしく思つて居ります
私の方は一つく試験が減つて行くのがうれし
くて 仕方がありません 卒業論文も大部
分終わりました 此の七日の化学原論がすむと
あとはずっと楽になります 早く赤ちゃんを
だいて見たいものです
六月四日記 三軒茶屋

辻村伊助

武田久吉宛 (横浜開港資料館蔵)

1052 大正二年(一九一三) 二月二十四日 (Paris 発)

昨日は失礼、滞在中者いろく
御面倒ばかりかけてすみません
でした どうも有り難う御座い
ます、
リッチモンドで見たあの月夜は忘れ
られません!
明日からまた新しい都の見物、
言葉の通じないのがものたらなくて
困ります、
二十四日夕 辻村伊助

1053 大正三年(一九一四) 四月二日 (ナポリ 発)

伊太利の旅は暖かくて呑気ですがすべて
の人間が乞食みたいで余りいゝ気持ち
はしません 僕は五月十日頃にロンドン
に行き
ます、恐れ入りますが若し手紙でも来
たらば御手元に置いて下さいまし、
近藤君ももうロンドン着の事と思ひ
ますが事によると僕は逢へないかも
知れませんが、 四月二日 ナポリより 辻村伊助

1054 大正三年(一九一四) 六月二日 (Edinburgh 発)

モーちゃん説明の幻燈画を排列する為
め一日遅れて十一日午後六時当地に着
仕り候今日は雨、明日は先づ手初めに
アバディーンにゆく筈、長き旅を先に
して
トロサックスの方は ノルウェイ行の船の都
合にて時日を定めるつもりで付、
方々により通信いたし申すべく候。御手
紙は当ホテル留置きに願ひあげ度く
存じ、午後は植物園にゆくつもり、
いづれまた、
本日入浴いたし候間 御安心下され度く候 梓

1055 大正三年(一九一四) 六月二五日 (Braemar 発) ★

仰せの通りカーラーターまで馬車 それ
より登り候天気申し分なし 雪の
少ないのが何よりも残念、
どこまで行つても山らしくなくてやゝ
失望
帰りははからずも大兄と全く同一の
地点にいで ついでに滝(?)を見
て戻り候、明は峠ごしにアヴェモアに
六月十五日夕方 梓

1056 大正三年(一九一四) 六月二五日 (Braemar 発) ★

昨日午後小雨の中をモーロンヒル
に登りて、ディー川を見下ろして
ハイランドの景色は登山の目的でなく
単にぶらぶら歩きの為めに適すと
存ぜられ、雪がちつとも見えずつして
少し心細く候

1057 大正三年（一九一四）六月一八日
(Braemar 発) ★

夕方になると興が湧くが
日中はつまらなくっていけない
やっぱり氷や雪でぎざぎざに
つつたつた山でなくちゃ恐ろし
気が無いから物足りないや
最高峯のベン・ネヴィス丈登って、ちと
早く切りあげてスウイスに入る
つもり、君もスウイスに来るんだよ。

1058 大正三年（一九一四）六月二〇日
(Fort William 発) ★

六月二十日
ノルウェイ行の船は本月三十日ニウカッスル発、
次は来月七日でスウイス行に間に合はず候
為め少し切りつめ、カナールを通りて当地
着、運河はゴースの花盛り山吹より美しく
候、本日は雨、思い切ってベンネヴィスに
登山、頂上は暴風雨にて閉口、例の小屋
に逃げ込み候、午後一時半、飛び出して
湖水の所に下りて一息、風もやゝ静まりし
まゝすぐ上の丘をこしてグレンネヴィスに下り
候
崖で上りて時にはらくいたし候、ハイランドの
山は暴風雨に登ると気持ちよく候、

1059 大正三年（一九一四）六月二二日
(Oranarich 発) ★

僕はスコットランドの山には余り
感心しないが山ふところと
云うやうな村や、カラマツの
しげったグレンは たまらなく
なつかしい、ことに夕方、日が
沈んでからの静かな気分は
とても忘れる事は出来ない、
山登りを断念して静かに
景色を見初めてから、漸やく
ハイランドの有難味が分つて来た、

1060 大正三年（一九一四）六月二三日
(Kraiyannarich 発)

六月二十二日□□イアンラリッヒ停車場より
小雨の間にのりかへ、次の発車は午後
二時三十分、まだ一時間も間がある、
明日は一日キリンの附近を見て一度
グラスゴウに出て、改めてロツホローメント
からトロサックスを逆に歩く、実は

スカンディナヴィア行きの船の切符
を買ふ為めグラスゴウに出るんです

1061 大正三年（一九一四）六月二三日
(Bridge of Lochay Hotel 発)

Bridge of Lochay Hotel より、
申し上げます、
今朝 Fort William 発 時間も充
分あつたから Balgahidder まで
来て、荷をのこしたまゝ Loch Vail
に行つて来た、静かな湖水だね
Rob Roy の御墓がある教会に
シカモアの大きなのが二本あつた、
二十三日 梓

1062 大正三年（一九一四）六月二五日 ★

二、
五色ヶ原、薬師の太郎兵衛平、
雲の平、これ等は全く、同一の
成因と思はれ初めた、いづれ
もう一度、飛驒山脈に入った上、
梅沢先生と大いに議論する
つもりだ。
時に白峰、荒川、仙丈、赤石、など
の岩質はさっぱり知らないんだよ、
然し赤石は秩父古生層の上部
に属してはぬまいかと思ふ、何しろ
一度も行った事が無いんで梅沢
みたいに申しのべる事が出来ない
のは残念、
詳しい事が必要ならば高野君に問ひ
合せて、地質調査所の中村新太郎君
に聞いてもらつたら、一番確かだと思ふ、
氏は赤石専門の研究者で、あの辺を
大分調査した事があるから、

三、
こゝのホテルは成程いゝ宿だ。すつかり
気に入ってしまった、
今月三十日出帆の船でスカンディ
ナヴィアにゆく、二十九日の夕方まで
に、ニウカッスルにゆくつもり、それま
で此の辺をうろつく、
然し何しろ日中は暑くてく
たまらないから山のぼりは考へ
ものだ、坊主山で蔭が無いから
たまらないやね、そして登つた
所でたかゞ・・・いやく決して、悪る
口は申しません申しません、

ハイランドは夕方、殊に今は、黄昏の時間が永いので、その頃が何とも云はれない感じがする、そして、殊に村はづれが一番なつかしくていゝ、
いづれ明日、
久吉様

梓

1063 大正三年（一九一四）六月二十六日
(Aucaster Arms Hotel(Callander)発)

(一) 六月二十六日
少々寝坊いたし候ま、午前十時出發、ペンレディにまゐり候
小さきスーツケイスにてネイルドブーツ入らず候ひしまゝ。並の靴にて下山には、少しすべりて閉口、
帰り途はいゝ加減に東に下り
滝のやうな山あいを眞直ぐにグレンレニに向い候、

(2) ペンレディにては風の為め
余り暑つからず大いに
樂に存ぜられ候
矢はりネイルドブーツの方はるかに歩きよく、救世軍大会
ならずとも 無くてはならぬ
ものと考へられ候

梓

1064 大正三年（一九一四）六月二十七日
(Rowardennan Hotel発)

二十七日夕方、
窓からベンローモンドと湖水とが見える、
夕方になつても充分に風は静まらないで西の方の雲が早く動くのが
面白い、
入浴は此の頃は一日置にする
ベンレディで日に照りつけられて顔がびりくする、 梓

1065 大正三年（一九一四）六月二十七日
(Rowardennan Hotel発)

六月二十七日
九時二十分の馬車でカーランダー發、風があつて中々寒むい、
ベン、ネビューはいゝ山の様だね、トロサックスのホテルの近所の森林は大いに気に入つた、
インヴァスネッドで昼食、午後三時頃当地着、早速、例の湖に行つた所、風がまだ充分やまないのでレフレクションは駄目だった、

1066 大正三年（一九一四）六月三〇日
(Newcastle発)

小生来月二日 Hull 發
Tryndhem に向ふ事に
いたし本日これから
Hull は出かける処
に候 いづれノルウェイより御たより申しあぐべく候

梓

1067 大正三年（一九一四）七月二五日
(ベルネルホーフ発)

七月二十四日ベルンより再びインテ□□ケン着、両山岳は冬の通り眞白ろに
屹えてゐる、
今日も晴れ、明日の午前に近藤君が来る筈だ、二十七日あたりからそろく山ふところに入り込むつもり
七月二十五日 ベルネルホーフにて

梓

1068 大正三年（一九一四）七月二九日
(Grindelwald発)★

七月二十九日午後五時
申し上げます、
Gross Schrechorn に登るつもりで
雨に逢つて滞在、古典の研究に
余念なし、大部分は君に関するものと知るべし、大部新しい雪が降つた、明日行く Strahlegg の小屋の近所では一尺余積つたと聞いた、こゝも中に寒むくてふるへるよ、 梓

ロンドンでつい御住所を忘れて
しまったので御無沙汰いたし
すみませんでした、廿六日に
インターラーケン着、八月中スイス
ニおり九月一日兩人共ロンドン
ニ販ります、 茂

1069 大正五年（一九一六）三月九日
(小田原発)

高野は加賀の結婚式で
大阪に行った僕も屢々動
員令が来たが失敬する
ことにした、土曜日には
いつでもいゝが成るべく御
茶の前から来たまへ、東京
発車は一時十分だと小田
原に三時五十分に着く
若し返事が無ければそれ
で来ると認めて小田原の
電車会社前まで迎へに
ゆく

もし時間が 異なったら電報でも
電話でも知らせてくれ給へ

1070 大正五年（一九一六）四月三日
(小田原発)

Many thanks for your cds,
We are so glad to hear you
are coming to us on 7!
Hoping you are enjoying our
nice spring weather is this
country! yrs Isuke.

1071 大正五年（一九一六）九月二日
(小田原発)

種子をありがたう
何しろこのごろは
暑いで身体の
置きどころに困つ
てゐる 冷蔵庫
でも作らなければ
とても持つまい
京都へ行く時には
是非御立ちよりを
乞ふ 急がしいんで
取りあへず御礼まで

1072 大正五年（一九一六）九月四日
(小田原発)

We missed you so much
Since you left here, please
come down to us again . on
your way to otsu and stay
one night to left us know
how you enjoyed your travel.

1073 大正六年（一九一七）四月二六日
(小田原発)★

久しぶりでうれしかったよ
君に逢ふとロンドンの
呑気な生活が思いだ
されて何よりも愉快だ
近いうちに遊びに来
てくれ給へ大いにまた
しやべるから
プリムラ、とセリバワウレン
とそれから何か山草の
芽生えがあつたら竹
筒の中に入れて送
つてくれ給へ又一寸出られ
ないから

1079 (時期不明)

非常に愉快だった、五日（土曜）の
夜は是非上智大学で御目にかゝり
たいものです 麴町九丁目停留所から
直だそうですから午後七時までに
御いでなさいませんか一昨日に御渡ししまし
たフィルムはいづれも Sahara の
オアシスの Biskra で撮影した
ものです
グレート、ポートランドストリートの
フィルハーモニックホールで幻燈講演会
がありますから御都合して御いで
なさいませんか 御暇ならばならば少し早め
に御さそひ下さい

さいなら

1074 大正六年(一九一七)二月一六日 (小田原発) ★

又、身体でも悪いいんではないかい それとも呑気な旅行
かね、来月高野兄の新年会には君が出席するのなら
僕も行く さもなければやめにするつもり

アー克蘭プで発芽促進をやつてコントロールと比較したが十二月三日
から始めて十三日に *Arenaria balearica*, *Silene meritima*,
Saponaria ocymoides の三種は発芽した コントロールは
無論まだだめ、温度は最高十五度、最低五度
今日から別の方法をやつて見るつもり 何か参考になること
を教へてくれ給へ 左様なら

小田原

辻村生

1075 大正九年(一九二〇)二月一五日 (小田原発) ★

武田兄

御葉書を頂いた晩那須皓君がやつて来て
それから今日まで別後の話やら何やらでついく
御返事を書きそこなつて、申しわけが無いとは
思ひながら失礼してしまひました

高山植物御改訂の由 僕の希望としては若し

(別冊として御附録になるのでなければ同時に)

索引便覧が加はれば我々に、与へられる利便は

非常なものだと云ふ事を御承知を願ひます、

体裁は初版よりは二版の方が遥かにまさつてゐ

ます けれど更により地味な(余りコリ過ぎない)

体裁がいゝと僕には感ぜられます

内容について僕に解し兼ねるところを申しあげれば、石灰の好悪に

関し、従来考へられたる如くにはつきりした限界は認められないやう

に思ひます、殊に、石灰を嫌ふ植物は石英を好むと云ふ

事だけは確かに誤りではないかと信じます、又、次に日本の花崗

岩と欧米産の Granite とを同一として取りあつかふのは無理ではないか

廣い分類から云へば同様の岩石ではあるが両者の性質が同一では

無いので従つて性分の上にも何か植生を支配する差異があり

はしまいかと云ふ疑問も生じます、不幸にして日本のこれ等山岳の岩石、土壤等の

分析表が無いので分りませんがこの問題を解決するにはそれぐの

産地の岩石及びその分解物を分析して石灰、苦土、の含量を

知れば何等かのコンクルージョンを得られる事と思ひます エーデルワイスの

産地に関しても□分で例外がありますがそれも岩石の名前に

強いられて成分の研究を観てなかつた結果では無いでしょうか

御申しこしの書物は Schroeter: Das Leben der Grpenpflanzen と

思ひますそれから永々拝借した Dalla tarre の書物も同時に御送付いたし

ませう、たゞもう一二週間しませんと荷物に着きませんのでこれ等を

湯本にはこび終るまで御待ち願ひ度う存じます(但し大兄の方のは今こゝに持つて来て居ります)

ウェストンの文大分子が読め無いで閉口、もう少しで終ります

それから Linnæan Society の報文は市売品としてありませうか

或はどこか本屋で年毎に予約する事が出来ませうか 御承知なら

御教示を願ひます

二月十五日朝

左様なら

伊助拝

過日は久しぶり非常に愉快でした。旅行中は元氣もよし面白かった事と羨しく存じます。国府津からの御葉書も拝見しましたが、ローザが先日からインフルエンザで今も高熱の為め床についてるので、子守やら看護やら台所の世話やら要するに独り者には説明しても一寸おいそれとは呑み込めない苦勞があるのでつく御返事もあげませんでした。「ハイランド」は近い中に御送りしますから御正し下さい。ケアンゴームなど、書いてあるかも知れませんが先日から発芽の促進について少しばかり実験を初めました。何か新しい方法はありますまいか、今やつてゐるのは浸種(冷水及び温水)、稀酸浸種、紫外線の影響等でいづれ結果が良否いづれにせよ表れたら第一に御報告申して御批評、御教示を願ふつもりです、此等は作物の種子には報告もあります。自然的に発芽の遅い科に属するものでもどれ程の効果があげられるか、又園藝上に利用して高山植物播種繁殖を容易ならしめることが出来るか、何とか面白い結果が出ればいゝと思つてゐます。

次に君の「高山植物 P81」について伺ひ度いのですが、P81「石灰質を好む種類は石英質を避けるか又は甚しく嫌い……」とありますが、僕の見たコルヴオンの書いた記事には彼の友人 Rosenstikl の実験方法が明記してない為め甚だ不明瞭なので、その他に参考になる書物が無いから何かその点に関して精しく御承知ならば御教示を願ひ度いと存じます(ついでながら河野氏の書いた、「コルヴオンがその著 The Garden に云々として長々しく訳してあるのは W. Robinson の *Alpisse flowers for gardens* から訳したもので、即ちコルヴオンがそれと雑誌に書いたのをロビンソンが転載しそれを又引用したのでつまり彦引きに当るやうです)。

ローゼンシュティエールの実験もどうも石灰の有無だけを調べたのではあるまいか。即ち花崗岩に石灰分を加へずに実験したのではあるまいか、コルヴオン自身が *calicicole* 及び *Calcifuge* としてあげたのは確かにそうと思われる。即ち、一つは石灰岩のロシエードウネーで一方は花崗岩のブルルサンピエールで栽培したと云ふのですが *Granite-lover* としてありますがこれは甚だ妙な言葉で、*lime-hater* 又は *calcifuge* とした方がいゝと思ひます、

石灰を嫌ふ植物は多量の石灰あるところで生育し得ないのは明です、又石灰を好むものを石灰の少いところで栽培してもうまく行かないのは事実です。即ち *calicicole, calcifuge* に関しては明に区別が立ちます(無論程度問題だが)然しそれを反対に石灰を好むものが石英を嫌ふと云ふのはいかにも不思議に僕には考へられます、日本産植物中 *calicicole* のものが石英質に生ずるのは仮に問題外としても何れの土壤でも多量の硅酸は含まれてゐるので最も少い場合でも五パーセントを下らないと記憶します、そしてもし砂土ならば石灰質の土壤でもかなり多量の硅酸を含んでゐるのは事実です、たとひ程度問題にせよ、硅酸を嫌ふならばそれ等の植物は恐らくいづれにも生育し得ないとまで考へられます。

無論 *Calicicole, Calcifuge* の両方共 Ca, 及び Si は絶対に必要なもので、殊に Si は水耕法でやぐグラスが微量に水溶性なのでその存在は殆んどいかなる場合にも生ずるものですが、比較的結果の表れ易い鉢栽培に於ても *Calicicole* のものに石英を多量に与へても適量の石灰さへあれば充分に生育するやうです、僕は余り多くやつてゐないけれどコルヴオンが *Calicicole* として明記した植物の中僕の試みたものでも *papaver alpinum, Hutchinsia alpinae, primula auricula, Silene acaulis, S. alpestris, Aster alpinus, Astragalus monspess lanus, Leontopodium alpinum, Dianthus alpinus, Erinus alpinus, Draba aizoides, Gypsophila repens* 等は僕の経験によれば適量の石灰を混ずれば多量の花崗岩があつても決して差し支へ無いのです、即ち石灰を好む植物は石灰の極めて少い花

崗岩（欧州の）を避けるか又は甚しく嫌ふと云ふ意味にとつて差し支へ無いでしようか、即ち *lime-lover*, *lime-hater* はあるが *Granite-lover*; と殊に *Granite-hater* と云ふ言葉を除いてもいゝと思ふのです、
ミヤマウスユキサクラ等の例でも、日本の花崗岩には石灰の脉もあることがあり又 *Acusory mineral* の角閃石等は分解すればかなり多量の石灰を生じ輝石も同様、玄武岩に於ては十一、三パーセントの石灰を含んだ例もあつたと記憶してゐます、即ち花崗岩たると安山岩たるとを問はず適量の石灰が表土又は深土、岩石等に存するならば *caliccola* が此等の地に産しても決して植物個体の性質が異ふのでは無い即ち何れの土壤にも多量に含まれる石英は決して石灰のやうに植物によつて好悪せらるべきものではないと思ひますがどうか 御教示を願ひます、

それからマイコライザと植物の生理式は種子等に関して何か参考になる本でも又は雑誌でも御持ちでしたら一寸拝供いたし度いのですが

先日君にあげた種子のうち僕が播種したものでは *Geranium sanguineum*, *Lychris alpine*, *Linoria alpine*, *Saponaria ocyroides*

等はよく発芽しました *Saxifraga cymbolria von Huetti* はあげたかどうか忘れたが非常に不成績でした *Arenaria bolesica* もよく発芽しましたこれはたった一株生口が残つてゐるから来春までに発芽しなかつたら鉢栽培のを繁殖して差し上げませう、非常に成長の速いもので下手をやると庭中一杯になりますよ、但し日の強い処又乾燥したところは禁物です、

此頃の多忙と気づかひでレウマチスもつい忘れてしまひました

左様なら

十二月七日夜半

久吉兄

伊助

御許に

高野鷹蔵宛（個人蔵）

1 大正一二年（一九二三）九月一日 ★

御手紙をありがたう。そうして御厚意を深く感謝する、いろいろ御心配をかけて何とも相済みません。然し昨今はまったく工合がいゝから安心してくれ給へ、病気ではないんだよ。実際此の暑気にあてられるんで、僕の身体が悪いんではない。日本の陽気が悪いんだ、それで賢明なるスウイスの医者は僕の体質に最適の居住地としてミユルレンとグリンデルワルトを挙げた。然し、僕の目下の財政状態はともそんな転地をゆるさないから、あきらめてゐる、従つて医者にかゝつて相談する様な気分にはなれない、まづい茶を飲むべく僕は余りに我がまゝであり、気楽にして養生をしろと云つてもこれ以上に養生の仕様も又御承知の如くこれ以上に気楽に致し方もない。近いうちに僕の様子を直接御覧に入れるからそれを以て安心の材料にしてくれ給へ、頸部のグリクが中々なほらないで困るが、それは煙草をやめて了へば快癒すると思ふ。若しいよくとなつたらやめるけれど、そんなに苦行者のやうな生活をしてもつまらないから、まあ喫つてゐる。只、風邪をひくと必ず気管炎にかゝるのは、小供の時からくせでその注意が必要だが、これはどうにも仕やうがない。どう云ふものか、医者に診てもらふのと、占者に見てもらふのは同じやうにきらひで、苦しくなれば神頼みもしないとは断言しないが、まあ今の中は見えて貰ひ度くない。強情ではない、どうせ御承知の僕の躰格だ、いゝと云ふ筈はない。然し、本当に苦しければかゝるよ、どうせ畳の上で死ぬ心掛けはしないから、本当に悪くなれば動けるうちに雪の山へゆく、然し未だ、そんな気も起らないから安心してくれ給へ、ローザも弱い。東京の医者には、北村病院の屋尾板博士以来すっかり信用を落してゐるし、働かなく（殊にミシンと洗濯が悪い）そして食欲（自分で料理するとその臭で食べる気がなくなるので）さへ出るやうにすればいゝのだが、これも目下の状態では絶対にやめると云ふ訳にも行かない、いよく困れば僕が料理してもいゝが今の所はそれ程でもない、時々痛むけれど目下はそんなに悪くはない。

転地はいゝには違ひないし出来ればやるが、どうもそんな余猶がないから仕方がない、冬は随分寒いがこれとても小田原と大同小異で、かりに差ありとするも、二三度の差だらう。そのために移転も出来ないし、転地してストウヴのない宿屋にでも入れば尚さら困るばかりだ、君の好意を感謝する僕達の心は知られる事と思ふ、つまり僕達が年をとると共に抵抗力がなくなつて来るから、今まで通りの体質でも前以上に影響を与へるので、これはどうも仕方がない。いづれ御目にかゝつて御話ししやう、それに此間うち少しふさぎ込んだ訳もあるが、これはむしろ興味中心で聞いて頂くべき事で決して心配な事ではない。フェット確に拝受どうもありがたう、ヴィターミンはローザは昨今胃の注意が必要なのでやめて、僕が飲まうと思ひながら、つい忘れて未だ半分過ぎのこつてる、今日から忘れずに飲まう。奥様にもこんな訳だからよく御心配のないやうお話しを願ふ。辻村は相変らず仕様がないう奴だなんて云つてはいけないよ。

鷹蔵兄

伊助拝